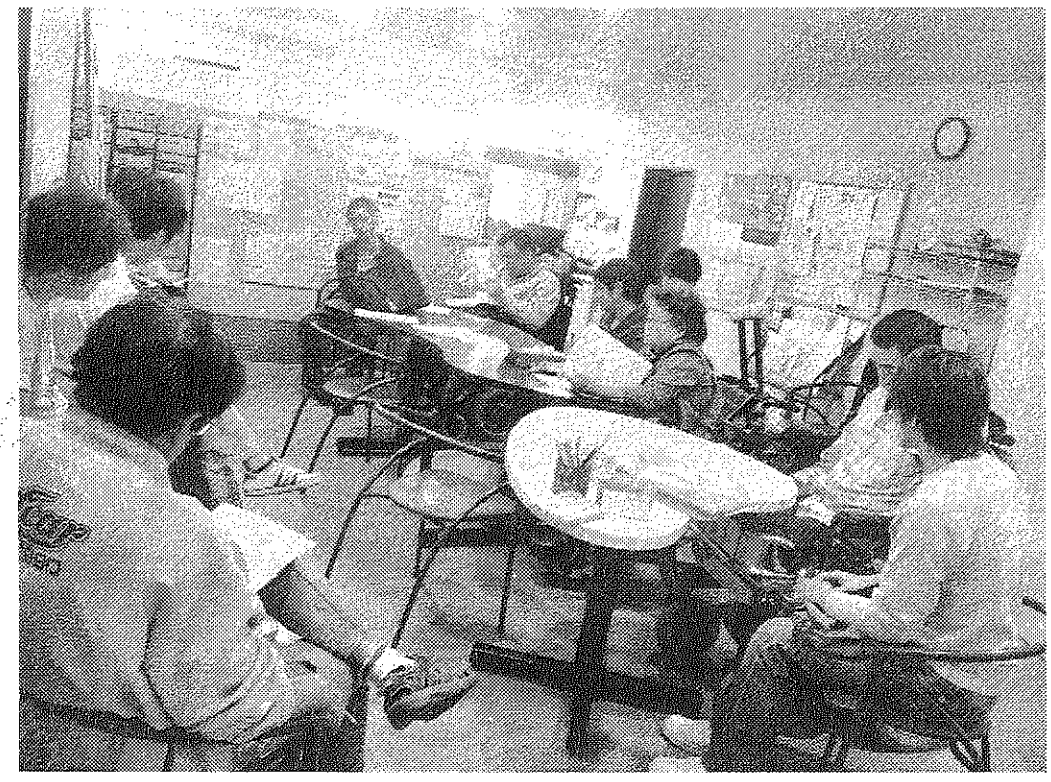
Hasshoren Tsushin

Vol.282

2013.11.8 Tel 080-3451-8400 E-mil hasshoren8.zim@softbank.ne.jp

例会の報告

10 月 17 日 ヒューマンケア協会にて、八障連例会が行われた。今回の隔月企画としての団体報告は NPO ピュア(ぴゅあ さぽーと せんたー)所長 立川氏から、設立までの流れと最近の事業内容についての説明があった。



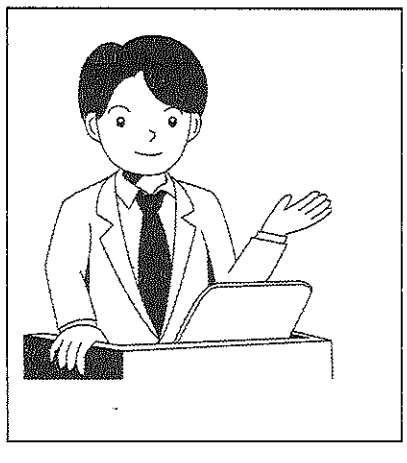
立川氏の自由な発想力と広い人脈、様々な状況に柔軟に対応する姿勢によって、事業は次々と拡大してゆき、開設当時の平成 14 年、6 名だった利用者は平成 22 年には 21 名へと飛躍的に増加した。一連の流れに参加者は釘づけとなり、各々の事業と照らし合わせながら、今後の障害者施設の在り方や、運営の難しさなどについて語り合うなど、当日は、和やかな雰囲気のなか、多くの意見交換が行われ、内容の濃い情報交換の場となった。

その他、報告事項として、市議との懇談会のテーマを防災以外にも幅広く取り扱う事を検討し、様々な問題を多様な視点で提案してゆく方向で進めてゆく案となった。

また、ボウリング大会の日程調整も行われ、今年度は早めの日程調整と告知を行う事となった。

(文責／川出)

『ぴゅあ さぽーと せんたー』の紹介



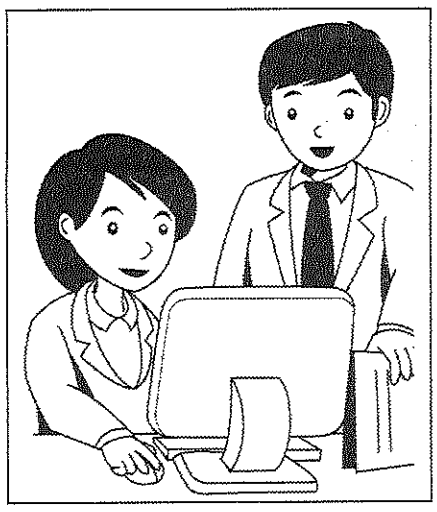
所長 立川 定克

ぴゅあ さぽーと せんたーは、『利用者個々のニーズに拡く対応できる場』を目指し、平成 14 年 4 月に当事者 6 名と有志若干名による自主運営団体として、東浅川町を拠点にスタートしました。当時は思いばかりが先行し先立つものもない中でのスタートでしたので、エアコンもない夏場には日々市民センターなど、地域資源を存分に活用させていただいておりました。また、床は土間の打ちっぱなし状態でしたので、冬場の冷え込みも半端ない状態でした。ただ、今思い起こしても当時の辛かった思い出は、深～く考えなければ思い出せない事柄ばかりで、思い出されるのはみんなで過ごした、その日暮らしのような中での楽しい思い出ばかりです。

平成 15 年度からは、東京都の通所訓練事業による地域デイグループとして補助金を受けることができ、自主運営時とは全く違う責任を負った、1 つの組織としてのスタートを切りました。ただまだスタッフを雇用するほどの余裕はなく、ほぼ無償のボランティアさん達に支えられ、日々の活動を行っておりました。活動内容は、下請けの軽作業や清掃、水泳活動やレク活動、調理実習といった内容で、それらが現在の活動の基礎となっております。

また平成 17 年度になると、友人が経営していた会社から、寄附という形で行政書士を派遣してくれ、なんだかよくわからないうちに同年 9 月には NPO 法人格を取得。この事が後に行うことになる新体系移行への大きな役割を担うとは、まったく想像もしておりませんでした。

翌年度には障害者自立支援法が施行され、巷では今後の動向にかなりの注目が集まっている中、そのことが何なのか？ 自分達にどんな影響が及ぶかすらも解らず、相変わらずのんびりと平凡な日々を過ごしておりました。そんなあまりに危機感のない私を、周囲の方々が心配してくれ、多方面から様々なアドバイスを頂くことができ、平成 21 年度の基盤整備事業補助金を利用し拠点を現在の並木町へと移し、平成 22 年 8 月多機能型事業所(生活介護・就労継続支援 B 型)を開設することができました。



これを機に、利用される方々の余暇支援サポートを目的に平成 24 年 7 月に地域生活支援事業(移動支援・日中一時支援)を開始、同年 9 月には主たる介助者のレスパイト、ご家族の緊急時の対応や地域生活移行の準備として、定員 2 名の単独型短期入所を散田町に開所いたしました。 これといったポリシーなく、のんびりぼちぼちと過ごしてきた 10 年。苦難や障壁にぶつかる度になんだかんだと、他団体の方々はじめ周囲の方々に支えられ、助けられてきたんだなぁ～と、今回このお題をいただだき過去を思い出し、改めて実感いたしました。

今年で 11 年目を迎えている“ぴゅあ さぽーと せんたー”ですが、まだまだ未熟な部分も多く頼りない面も多いとは思いますが、これからもお付き合いよろしくお願いいたします。

Hasshoren Tsushin

事務局通信 Vol.5

年会費の納入についてのお詫びとお願い

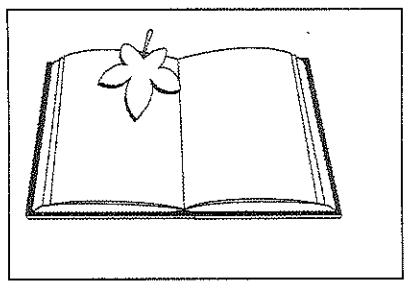
前回の通信でお知らせしました年会費の納入について、早めの振り込みをお願いしたにも関わらず、しばらくの間振り込み不可の状態が続き、一部の会員にご迷惑をお掛けしてしまいました。この欄をお借りして、改めてお詫びを申し上げると共に、簡単に経過説明をさせて頂きます。

以前にもお知らせしましたが、八障連の事務局はこれまで長く使っていた長房通所センターが閉鎖となるので、昨年度より代表の夛田宅に変更しましたが、便宜上振込先のみ以前の住所を使っていました。そして今年度、センターが完全に閉鎖となる事から、振り込み用紙の取得と平行して住所変更の手続きも行いましたが、数年前までは簡単に行えていた変更も、郵政民営化や法的な問題からかなりチェックが細かくなっていました。結果、担当者が日常業務の合間を縫いながら、書類を揃えて何度か郵便局へ足を運び、ようやく手続きを完了した時には、皆さんのお手元へ振り込み用紙が届いた大分後でした。従って、しばらく住所がない状態になっていました。

尚、現在は変更手続きも終え、振り込みも可能となっておりますので、改めて早急の納入をよろしくお願い致します。

＜文責／夛田＞

連載コラム 『日々のなかから、、、』 vol.25 事務局長 杉浦 貢



前回に引き続きパラリンピックのお話しです。

■国際大会への飛躍

1960 年、イギリス、オランダ、ベルギー、イタリア、フランスの5か国により国際ストーク・マンデビル大会委員会(ISMGC)が設立され、グットマン卿がその初代会長に就任しました。

ISMGC は、オリンピック開催年に実施する大会だけは、オリンピック開催国でオリンピック終了後に実施する意向を表明。(この当時から関係者のコメントの中に、Paraplegic Olympic(対麻痺者のオリンピック)という言葉が用いられている)。

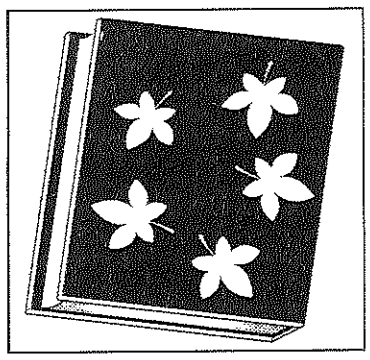
そして同年、オリンピックの開催されたローマで国際ストーク・マンデビル大会が開催されました(23 か国・400 名が参加)。
ちなみに、このローマ大会は、IPC 設立後に第1回パラリンピックと位置づけられています。

■東京大会とその後

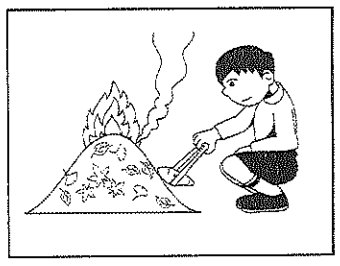
1962 年、国際身体障害者スポーツ大会(IPC 設立後、第2回パラリンピックと位置付けられた)の開催に向け準備委員会が設立された。その委員長に、当時の社会福祉事業振興会会長(元日本障害者スポーツ協会名誉会長)の故葛西嘉資氏が就任した。

葛西会長は、当時グットマン卿に師事していた中村裕博士(社会福祉法人太陽の家やフェスピック連盟の創設者)とともに大会開催の準備を進めました。
両氏は東京大会を、車いす使用者だけではなく、すべての身体障害者が参加できる「国際身体障害者スポーツ大会」の開催を決意。グットマン卿ら関係者に理解を求めた。

そして 1964 年に開催された国際身体障害者スポーツ大会は、東京オリンピック直後に 2 部制で開催された(第 1 部は、ローマ大会に続く国際ストーク・マンデビル大会であり、後に第 2 回パラリンピックに位置づけられた。第 2 部はすべての身体障害者と西ドイツの招待選手による国内大会)。
そもそも「パラリンピック」という名称は、「オリンピック開催年にオリンピック開催国で行われる国際ストーク・マンデビル大会」＝「Paraplegia(対まひ者)」の「Olympic」＝「Paralympics」という発想から、東京大会の際に日本のマスコミが名付けた愛称でした。



今後のスケジュール



11 月 14日 (木)	運営委員会	18時～20時	クリエイトホール 試食コーナー
11月 21日 (木)	市議との懇談会	18時 30 分～20時 30 分	クリエイトホール 第 2 学習室
12月 19日 (火)	例会	18時～20時	クリエイトホール 第 2 学習室

＊12 月19日の例会は隔月企画として、若駒ライフサポート(第2若駒グループ)状況報告を予定しています。多くの方のご参加をお待ちしています。